

# PC入れ替えによるMicrosoft 365のライセンス認証に関する課題を解消。ローカルブレイクアウトで円滑なクラウド活用促進に貢献するA10 Thunder CFW

## 顧客名：

有田市

## 業種：

自治体

## A10のソリューション：

A10 Thunder CFWによるローカルブレイクアウト

## 課題：

- コストを考慮しOfficeアプリケーションのクラウド移行を検討
- αモデルのまま、ライセンス認証以外にもMicrosoft 365の機能をフル活用へ
- 庁内グループウェアのスケジュールの閲覧も実現したい

## 導入効果：

- Microsoft 365を円滑に利用できるローカルブレイクアウトを実現
- Microsoft 365のアクティベーションが容易に、機能のフル活用も可能に
- クラウドサービスのExcel関数利用も実現、現場から高評価



**有田市**  
経営管理部 総務課 デジタル推進室  
副主任 長岡 賢紀氏

“A10 Thunder CFWのおかげで、サブスクリプションでしか利用できないMicrosoft 365の新たな機能が使えるようになったと現場からは喜びの声も。これまで使えなかった便利な機能を現場に広めていくことができます。”

有田市 経営管理部 総務課 デジタル推進室 副主任 長岡 賢紀氏



有田市では、市や事業者、医療機関、教育などさまざまなデータを連携する基盤となる都市OSを整備するDX推進事業に注力しており、PCの入れ替えを含めた業務系システムの刷新プロジェクトにおいて、Microsoft 365への移行を検討しました。柔軟なクラウド活用に向けた環境整備に向けて、クラウドサービスへのローカルブレイクアウトを円滑に行うためにA10 ネットワークス(以下、A10)が提供する「A10 Thunder® CFW」を採用しています。

## 課題：PCや業務システムの刷新タイミングで検討したMicrosoft 365

和歌山県北西部に位置し、海や山など風光明媚な自然に囲まれた温暖な地域でみかんの産地として広く知られている有田市。大阪湾から内海系水と黒潮分子流の恵みを受ける豊かな漁場を持ち、シラスやアジをはじめ、太刀魚の漁獲量は日本一を誇るなど多くの特産品を有しており、日本最古と言われる糸我稲荷神社など歴史や伝統文化が色濃く残っています。

有田市において、庁内システムの運用管理や行政手続きのオンライン化、自治体DXを強力に推進しているのが総務課 デジタル推進室です。デジタル庁の構想にならって、データ連携基盤を活用した新しいまちづくりを目指しており、なかでも都市OSを基盤としたスマートシティ構想など、新たな環境づくりにも意欲的です。産業構造の変革によって従来のアプローチから脱却し、デジタル技術の積極的な活用を通じて、持続可能な自治体運営に向けた施策にも取り組んでいます。

そんな有田市では、全庁的に活用されているPCや業務システムの刷新タイミングを迎えることになりました。そこで、Microsoft Office製品の更新に関する課題が顕在化したと経営管理部 総務課 デジタル推進室 副主任 長岡 賢紀氏は当時を振り返ります。「一般的なインストール版のOfficeでは、数年ごとに入れ替えタイミングが訪れるためにその都度手間がかかります。ライセンスが高騰している状況のなか、その都度予算化するのも大変なことから、クラウドサービスとしてのサブスクリプションモデルで利用したいと考えていました」。LGWAN経由でもライセンス認証は可能ですが、あくまでアクティベーションできる環境のみとなります。次々と実装される新たな関数やAIをはじめとした新技術などを活用できることがサブスクリプションの魅力なのですが、それが利用できないことで機会損失につながる恐れもあると考えたのです。

## 検証：自治体で実績のあるローカルブレイクアウト、そこで活躍するA10 Thunder CFWに注目

有田市では基本的に三層分離におけるαモデルを堅持しており、その環境でMicrosoft 365の機能がフルに活用できる環境を検討することにしました。「実は庁内のオンプレミス環境に設置したグループウェア上のスケジュールを、個人所有のスマートフォンなどから確認したいという声も多く寄

せられていました。内部の情報を外部から閲覧できるソリューションは存在していたものの、それもインターネット上にあるため、うまく閲覧できる環境が望まれていたのです」と長岡氏は語ります。

そこで、PC環境の刷新に関する入札をプロポーザル方式にて実施し、その追加要件として提案されたのが、A10 Thunder CFWを活用した手法でした。「さすがにβモデルへの移行は環境的に難しい。他の自治体の事例を参考にベンダと検討していくなかで、実績のあるA10が候補に挙がりました」と長岡氏は語ります。

提案を行った株式会社サイバーリンクス 公共クラウド事業部 公共サービス運用部 部長 田内 一章氏は「県内の他自治体で、Web会議ソリューション利用に向けてセキュリティクラウド経由以外の経路を確保するべく、A10を導入した実績がありました。メンテナンスフリーで非常に安定して稼働していることもあり、一番確実に要望に応えられるソリューションだと考えたのです」と説明します。実際には他のソリューションも候補に挙がったものの、定義ファイルをベースに接続先を決める他のソリューションでは、ファイル配布が追いつかない場面で接続がうまくいかないケースもありました。アクセス先のドメイン変更が発生しない今回のケースでは、A10のソリューションが有効だと判断したのです。

他自治体の導入実績や安定した稼働状況を加味したうえで、Microsoft 365を含めたクラウドサービスをローカルブレイクアウトする基盤として、A10 Thunder CFWが選択されることになりました。

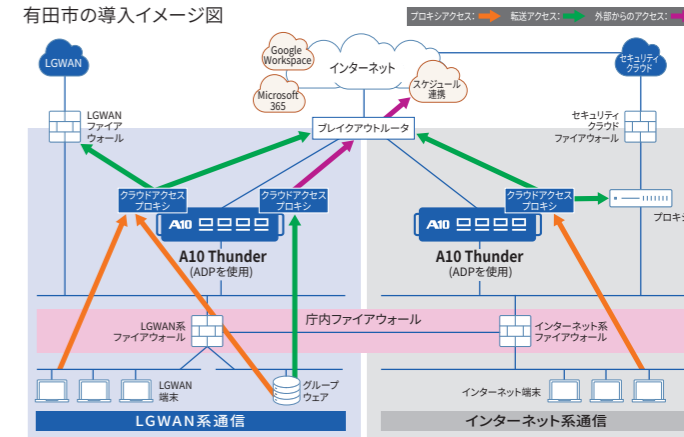
## ソリューション：1つの筐体内で論理分割、円滑なローカルブレイクアウトが可能なA10 Thunder CFW

ファイアウォールやIPsec VPN、セキュアWeb ゲートウェイソリューションなど、統合されたセキュリティ機能が備わっており、クラウドアクセスプロキシとして多くの自治体に導入実績のあるA10 Thunder CFWは、特定の通信のみをインターネットへ直接振り分けるローカルブレイクアウトの安定運用が可能な環境整備に貢献します。別々の機器で実装していた機能を1ボックスに集約することにより、設備コストと運用コスト、両方の軽減が可能になります。

## 導入効果：LGWAN系とインターネット系を論理分割、安定したローカルブレイクアウトを実現

現在は冗長化されたA10 Thunder CFWのApplication Delivery Partition (ADP)を利用し、1つの筐体内でインターネット接続系とLGWAN接続系を論理分割して運用することが想定されており、Microsoft 365を利用する職員300名ほどがA10 Thunder CFWを経由してブレイクアウトする構成となっています。グループウェアに関しては、庁内環境で登録されているスケジュールをインターネット側に公開するためにブレイクアウトし、それらを職員個人のスマートフォンで閲覧できる環境を現在整備しています。「教育委員会や学校の教員などはGoogleのサービスを多く利用しており、我々としてもアクセスできる環境は必要です。現在は県のセキュリティクラウドを経由してGoogleのサービスを利用していますが、安定的に活用できるよう、A10 Thunder CFWを経由してブレイクアウトすることも視野に入れてます」と長岡氏は説明します。

A10 Thunder CFWを導入したことで、今回新たに契約したMicrosoft 365のアクティベーションは安定して実施できており、以前のようにアクティベーションのためだけにインターネットへ個別に接続するような手間もなくなっていると評価します。「現在OneDriveは使えるようにしていますが、実際はこれから運用面も整備したうえで活用していくことになる予定です。Microsoft Teamsはチャット内でのファイル共有など運用上の課題があるため、今後どう活用していけるのか検討しています」と長岡氏が語る通り、本格的な運用はこれからの段階となります。ただし、クラウド環境でしか活用できないExcelの関数を利用できるなど、一部の職員からは新たな環境



について評価の声も寄せられていると言います。

Microsoft 365に限らず、新たなサービスを検討する際の障壁を大きく下げられる効果も見逃せません。「従来だとインターネット環境や県のセキュリティクラウドを経由することに対する使いづらさなどが懸念材料となってしまう部分もありましたが、A10 Thunder CFWを使うと選択肢の幅が広がり、導入できるサービス自体は拡張できるようになるはず」と長岡氏は高く評価します。

日々の運用周りを支援している田内氏は、「設定自体はGUIよりもコマンドベースで設定することが多い状況ですが、当初実施いただいたオンラインセミナーの資料が分かりやすく、サポートも充実している印象を持っています。機能が豊富に用意されていますが、自治体で利用する機能はある程度パターン化できるため、横展開もしやすいです」と評価します。

## 今後の展開：災害情報の円滑な共有を含め、自治体独自の環境からの脱却を目指す

Microsoft 365以外のローカルブレイクアウト展開についてはまだ確定していませんが、災害発生の際に地理情報を利用して市民からの通報や道路の通行止め情報などを蓄積していくGIS (Geographic Information System) への通信をブレイクアウトするなど、新たな活用にも期待を寄せています。「現在インターネット上にあるGISに対して、庁内に寄せられた写真情報や取り込んだデータなどはGISに展開できていません。職員間の情報共有が迅速になることで、救える命を少しでも多くできる環境づくりにぜひ活用したいと思っています」と長岡氏は言います。GIS以外にも庁内でしか使えていない仕組みが数多くあるため、クラウドサービス側の安全性が確認でき次第、有益なものはどんどん許可していきたいと意欲的に語りました。

またオンラインストレージのOneDriveやチャットを含めたMicrosoft Teamsなど、一般的に利用されているツールをできる限り活用していきたいと言います。「自治体向けのチャットツールなどもありますが、あくまで自治体間での利用にとどまっており、なかなか浸透しにくいのが正直なところ。もちろん、無害化など課題は残っていますが、できるだけ一般的に利用されている汎用的なソリューションに合わせていくことが必要だと考えています。その意味でも、A10 Thunder CFWの活用シーンはさらに広がっていくことでしょう」と今後について長岡氏に語っていただきました。

## ■ A10 Networks / A10 ネットワークス株式会社について

A10 Networks は、オンプレミス、ハイブリッドクラウド、エッジクラウド環境における、セキュリティ、インフラストラクチャの課題を解決するソリューションを提供しています。大手グローバル企業や通信、クラウド、Webサービス事業者まで7000社以上のお客様に導入いただいております。ビジネスに不可欠なアプリケーションやネットワークの安全性、可用性、効率性を高めています。A10 ネットワークスは2004年に設立されました。米国カリフォルニア州サンノゼに本社を置き、世界中のお客様にサービスを提供しています。A10 ネットワークス株式会社はA10 Networksの日本子会社であり、お客様の意見や要望を積極的に取り入れ、革新的なアプリケーションネットワークソリューションをご提供することを使命としています。

詳しくはホームページをご覧ください。

- URL : <https://www.a10networks.co.jp/>
- X (旧 Twitter) : <https://twitter.com/a10networksjp>
- Facebook : <https://www.facebook.com/A10networksjapan>

記載された内容は2024年2月時点の情報です。



有田市

## Learn More

About A10 Networks

お問い合わせ

[A10networks.co.jp/contact](https://www.a10networks.co.jp/contact)

## A10ネットワークス株式会社

[www.a10networks.co.jp](https://www.a10networks.co.jp)

©2024 A10 Networks, Inc. All rights reserved. A10 ロゴ、A10 Networksは米国およびその他の各国におけるA10 Networks, Inc. の商標または登録商標です。その他上記全ての商品およびサービスの名称はそれら各社の商標です。A10 Networks は本書の誤りに関して責任を負いません。A10 Networks は、予告なく本書を変更、修正、譲渡、および改訂する権利を留保します。製品の仕様や機能は、変更する場合がございますので、ご注意ください。商標について詳しくはホームページをご覧ください。 [www.a10networks.com/a10-trademarks](https://www.a10networks.com/a10-trademarks) Part Number: A10-CS-Arida City-01 FEB 2024



自治体認定フルーツ

# 有田市認定みかん



有田市  
原産地呼称  
管理制度



## 有田みかんの未来のために

紀伊半島の西海岸に位置する有田市は、温暖な気候で日照時間が長く、排水性・通気性に優れた土壌に恵まれるなど、おいしいみかんが育つ条件がそろっています。400年以上続く先人の知恵とたゆまぬ努力の積み重ねで、コクと甘味のあるみかんが生み出されます。

その中でも、「有田市認定みかん」は、栽培方法や外観、味など厳格な基準をもとに食分野のプロフェッショナルによる食味審査に合格した高品質なみかんです。

そんな、有田市が誇るみかんのファンをもっと増やしたい。そのために、有田みかんの優れた味と品質をきちんと確保していこう。「有田 QUALITY=原産地呼称管理制度」は、みかんの未来を切り開く、新しい取り組みです。

有田市が誇るプレミアムなみかんをぜひご賞味ください。



和歌山県有田市

<https://www.city.arida.lg.jp/>

〒649-0392 和歌山県有田市箕島 50 番地

問い合わせ先：和歌山県有田市役所 ふるさと創生室 ☎0737-22-3648（直通）



有田市  
Instagram

和歌山県有田市

## ふるさと応援寄附



有田市  
ふるさと納税  
特設サイト



ひとも、まちも、特産品も魅力であふれる有田市の応援をお願いします！

「有田市認定みかん」はもちろん、シーズンを通してご賞味いただける「有田市認定みかんジュース」や漁獲量日本一の「太刀魚」、発祥の地である「蚊取り線香」、柑橘加工品、海産物など多くの特産品がございます。

有田市へのふるさと納税のお申込みは、上記にある【有田市ふるさと納税特設サイト】のQRコードよりお願いいたします。

## 私たちがおすすめします！



パティシエ 鎧塚 俊彦氏  
「Toshi Yoroizuka」  
オーナーシェフ

### 有田みかんの魅力

江戸時代より日本を代表するみかんの産地として栄えてきた有田市はその気候、土壌はもちろんの事、人々の心の奥底にまでその思いが浸透している様に感じます。作る技術はもちろんの事、みかんの味にも日本一精通している皆様のみかんを審査するという大役を毎回身が引き締まる思いで務めさせて頂いております。

この素晴らしいみかんの良さを少しでも多くの人に知って頂きみかんが再び冬のお茶の間の主役になるように、そしてその素晴らしさを世界にも発信していける様、微力ながら頑張りたいと思っております。



マスターソムリエ 高野 豊氏  
株式会社高野総本店  
代表取締役社長

### 有田みかん、 その注目すべき気候風土と生産者の努力

日当たりの良い畑と地質学的に注目すべき土壌から生まれる高品質のみかん、それは年々進化し他の産地との明確な差となっています。特に原産地呼称認定みかんの完成度は高く国際的に十分通用する水準にあります。

肥料や水分の調整、太陽光線を考慮した様々な工夫は、香りと味わいに反映され審査会のたびに新しい発見と感動があります。麓から頂上まで積み上げられたみかん畑の石垣、その間を通るみかん運搬用モノレール、ミカンの鮮やかな黄色に葉の緑、その先に青い海、最高の味わいと最高の風景をお楽しみください。